



水生こん虫は、どうやったらつかまえられるの

たも網でつかまえる

水生こん虫は、今では数が減ってしまい、なかなか見つかりません。岸边から水中まで、水草や、ヨシ、ガマ、クサヨシ、ギシギシなどの植物がしげっているような川辺や池、田んぼへの用水路などなら、まだ、水生こん虫が、すんでいることが多いものです。

ミズスマシやアメンボは、水面をくるくる回っていることが多いので、たも網を上からかぶせて引き寄せれば、つかまえられます。いるはずなのに見あたらない場合は、羽を1枚むしって飛ばなくしたハエなどを、水面に落とすと、あばれるハエが水面をゆらすため、姿を現すことがあります。

水草や水底のかれ葉、くきなどのまわりが、ねらいめ

水中の水草のまわりを、たも網で何回もすくってみましょう。水草の中にまぎれた、ミズカマキリや、タガメ、タイコウチ、コオイムシ、ガムシなどの成虫や幼虫が、見つかることがあります。これらは、水底にたまったかれ葉や、かれたくきにつかまったり、そのかげにかくれていることもあります。

水底のどろの中は、生き物のかくれ家

水底のどろを網で何回もすくってみると、どろの中にかくれているさまざまな生き物が見つかります。夜行性で昼間は水底をじっとしていることが多いゲンゴロウや、ゲンゴロウの幼虫、ヤゴ、カゲロウの幼虫、トビケラの幼虫、ドロムシ、ユスリカの幼虫なども見つかります。これらの幼虫の種類を見分けるのは、ちょっとむずかしいです。飼ってみたいのなら、どれか1種類を選びましょう。種類のちがうものを同じ水そうで飼うのは、共食いすることもあり、失敗することが多いからです。（監修・中山 周平）

